

英語科レギュラー授業の中心は、皆さんもご存じの通り構造把握を土台とした内容理解にあります。従って入試に必要な構文については、レギュラー授業でほとんど扱われています。しかし、時間の関係上全ての構文を扱えるわけではないので、レギュラー授業で扱われていない一部の構文については初回授業で配布される『構文解説プリント』の短文と解説を自習することによって補うよう指導されています。

皆さんの多くは担当講師の指示に従い、小テストをペースメーカーとして『構文解説プリント』の自習を進めていると思いますが、中には思うように勉強できなくて焦りを感じている人もいないでしょうか。

この講座は、そうした『構文解説プリント』の自習が進まない人（短文の訳は覚えたが、解説を読んでも何故そのような訳になるのかが分からない人など）を対象に、『構文解説プリント』レベルの構文を確実に読解できる力をつけてもらうことを目的としています。

## 【本講座の内容】

『構文解説プリント』でも特に自習しにくいと思われる構文（具体的には否定構文・時間構文・譲歩構文・目的構文・結果構文・盲点など）を完璧にすることを目標としているため、この範囲を逸脱する内容は基本的に扱いません。

上記の構文について、解説（理解）→出口チェック（インプット）→入試問題演習（アウトプット）を一週間毎日繰り返します。暗記は授業内に行ってもらおうので、未消化のまま実力がつかないということは決してありません。そのつもりで臨んでください。

## 【対象者（英語レギュラー内生）】

- ・レギュラー授業の内容は消化できているが、レギュラー授業で扱っていない構文になると理解できなくなってしまうような人、あるいは『構文解説プリント』の学習が例文暗記のみに偏ってしまっている人を対象に、重要構文の確認及び理解を目標とします。
- ・復習試験が200点満点中90～120点程度で、『構文解説プリント』の自習状況に不安のある人。  
(復習試験の点数が90点未満で受講を希望する場合は、担当講師に相談してください。)
- ・春期講習で「構文整理」を受講した人は内容が重複するので、夏期講習を申し込む場合は『頻出英文法・語法解説』を申し込んでください。
- ・なお、春期講習で「基礎英文解釈」を受講した人が夏期講習を申し込む場合は、本講座が推奨されます。

## 【対象者（英語レギュラー外生）】

- ・大手予備校の記述・マーク模試の偏差値（英語）が50～60程度で、入試に頻出の構文を固めたい人。なお、「構文整理」を受講した英語レギュラー外生には、『構文解説プリント』を授業内に配布します。